親愛なる會の從業員諸君！

吾々が賃銀値上げの要求をしたことは、既にお存じのことでせう。

會社は去年の下半期に四十七万三千五百二十五円の利益を獲、七人の重役は、半年に一万一千円のボーナスをとってゐる。吾々は此時一文の賞與も貰ってゐないのだ。

吾々も同じ人間だ。會社のために働いてゐるのだ。それなのに、重役七人は、年二万数千円のボーナスをせしめ、吾々は一銭も貰へぬ。

親愛なる從業員諸君！諸君も一度は吾々と共に起ったのだ、此事實に目覺め、更に一層躍起せよ！

諸君！會社は経營困難だと云ふのか？

會社は半ヶ年に六万二千五百円を株主に分けて居る。吾々の要求する日給三十銭値上げは、會社に三万三千円の債銀の增加を來たすだけだ。會社が利益配當を半額にすれば、吾々は樂しく働くことが出來るのだ。諸君！吾々の要求のどこが悪いのだ。

親愛なる諸君！一度は吾々と共に武器を手にした諸君！

吾々と共に再び

會社の配當を半減せよ！一割を五分に減らせ！

と絶叫せよ！

そこに、諸君の進む路は開けるのだ。

會社の言葉が後にはサギがある。

大正十五年十一月三日。

關東醸造勞働組合　銚子支部